雜々記

契沖法師撰

121.27
Ke116z
W

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z

ガラス使用

雜々記

一 なつてのかゝるかの男とゝんかほとにおひさしく大きなりく此男を一四よくひくなり

一 大なりむさひの年婦りもなともそけとふてけなるも長器にちゝ

一 西乃四来より小皇ゝ前つよりハ西人も長中ぬうきのやらくましなる一所をかりなるうきなり

一 上総を西宮ましの神

一 瀬頭城

一 今ハむしゝかよみのえ浦くれ升ふなりえかもまたるもの使しまゝ一条大政まうりなほとふ度上の

121.27
Ke116z
藻魚庵藏書印
国立国会 29.7.22 図書館
336272

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z
ガラス使用

東松田にあるべきぬるんは前にうたはれたれ
いらかにていまいたしを人しらふ身をかりひくるとい
うくあふりけれは一るくらひくから也
一かしくしはさしなりけれはかくうたくもあらん
一をとくふつのつく　こゝ我訓まゝあれ
一五郎の小かとついたとな　二ツ雄
比叡山かもつる　袁板の中に年比のかゝる水まり
けるに大なる吳ともおほかり三人もとりれ鯰二三童
乃こうさせしをかなしてをかへなん。もれるれ役給西之
一こゝ西たゝりのやうにくるめよく
一なゝ西ヲくれ

一うんさせほのくらく
一かたつくる
一吳養出七大時額一あとやのむかしなる夏もとり
一くもこれをく
一よるせ紀女
ほし詞
一雨うちはふりくつきくなりける日喘感イロケラ日本紀ニ
うしをれいとにくさむなるか
一いかくとうちあれく
一ものあり戸
一入るの最下也

一ほそ法しまおく
一ゑつかに入なり
一鼎の法しや紀 十市皇女

宇治拾遺

一盗跖に年ニテ 無をこそひえを印し證をしきり
よふこそつすこれを世の人孔子こそふれしといふ也
一今はむし路命の署梨とく線(ちりて)殿乃子にいろかふ
けりする僧ありけり和泉式子にかよひけり師をめしてく
おしとり
一こうひ御行水も月つく

一かしらぬるゝなる法師
一在仲胤僧都ちく説法をしひをきへいましけり
一両風をしらかくしく御ふに及ぶく
一ゑ紙てんのふれをくにすりしく
一む孫とあるとゝゐる鬼横座にのうを何といふ
かくとこそせ新をといひてよこ法れ鬼の弟子孫
いてくとくめり
一あさゝ無寸
一ゑゝこされるなまま
一をちりもあり元ひてゑをいふして
一をけめ孫もわきれはよう

336272

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z

ガラス使用

くいれ出しく大餐のおろし菜にて絆仕れる
拾節のものともの人ひ申さ
一たれくろ船ことのこ御代はあるとこ宮のなかり
思ひはいふ所はすしたる船をのこはぬなめりと見る
一あそこくとく宮山もるゑ
一望せんしやか
一望狐
一をとと船しきゑ郎等
一大そん不のむ詑をきうりきうてやませぬしかは
一ゆくゆく行へきゑ
一これはあきてをなりけりと御さしなひ申り

一五天船をれうま
一しわきゑきゑのあゆといふことのきく世中しくわ
かやうにきこなけなきゑとも
一これ水とみるはこせんなりけり。味僧けか
一けをはめ御はうをくさしもなきゑ
人ゑれ八丈わこきゑなと後子ともにいまくさ
一こたるしもせば　聟給ひ
第二
一西京になれいとおほくおひ者所不御りは御
こうしてぬいとほしかりけれは御ひ
石とに　聖（イニ聖ハ徳）は清海なり
一白菜十石をおもれにしくいくらもとおきしく

一見と成まゐる　○蕓相しり
一これをまろけく皆かたれ人もう相　○丸なりしん
一よせいしとわりうそ
一せ相うも君乃祢に記と人成少ぬりしてきせる
君やうにこさくとおりて見るを
一朝のあしまれををれ得くそまつりをりけり
仙は人爰にすてまいりうり所にけりまふさまき
のこひとりてい
一て見をうく志うり月に神を洗くろひくにまき
かいのこひなとしくもやうりの名紀てませる
まれをましけつり

一ふうしきれ
一ひあらまれをもをしとれほきいをいしふまりた
まひくもあらて
一とのしくもしくつむ金つも命れうしくもる
くしきるなし
一さてそれるの無にゆくらく愛奈とあさこ月めのひけり
一むりし池の底に禅弥内侍とそいふ僧をこけり
ていふなとよくなしひて年久しく行くふとか
まりうさくひ内侍をまれ長かりけり五六寸もう
りれ里けきもれとうひよりさうりてそ見てけ海
見をあり[illegible]されて大植子のうこれやうにつくた

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z

ガラス使用

一あひとゝさ入をりなにゝあらんとてうたゝしくゝきも
白菜のいかきなり
一せとのうちに菜れちからふをくふとくく
一えこまけく
一あらゝ稲菜にこそけくなしたせなとまきは菅の
くきり
一屋や
一をのれたれちくゝ
一おさけをたかちしなりしんをもゆるさひつき物くて
たしくなりしぬなとよいとへ清く
一うたゝしんもうせたてて

一うちをさくきたこわりをのしけあらんゆゑにむやか
まてあらうめてくれるかきうなし
一まいしんをよひてその人乃ひすまし。あらいこまていろん
ちんそうて　うまてよこうせよ
一いよく　ほきくしくこひられと
一今きむし一陣なしとは東三条殿の見に相しまた
やんと物くよきへの心め君れもとへ相しまいしその小ちり
めてと母なとをかたひくゝ父はさしせけを給ひぬ
ほとに実つけくいとしくいらまちて母とせるめつま
いしき我しくいくのこまひけきいきなりしと何ら
りひとまこしきよしの文なくくへとたしきこのうひ

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』 請求記号 121.27-Ke116z　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z　　ガラス使用

一 沖たるこゝろまや

一 布しむら

一 明ぬきたしうとうよれ弱く

一 えもいたぬるゝれ出きを子愛らぎ　なとにいふまや

あらんとえるゝかとふ

一 おきぬもかりよ　そひられと

一 をれくくるへ　りそ　行れ

一 やいらこれをうりそ　たや

一 風の使つくるゆ　小徒つきく

一 又西京殿の大餐に小使家　愛いそる者に　たたせ

とそそきたこそ

その日よりくわさしいけてそしくりうてうて

あ　きしきけれを小野家　わきよりの

りておいしけり中なに　おきふ　来こるき　松一本そり

けりその松を又とうる人　愛れかりくしましたこの

こ又法いひけれをこの大餐の日をむ月のるなれ

とも愛れ　いこしくれらしくつくりく　松の枝より

辺月なしうけらきうる　何なしぬことのこおさ　御しきれ

其のかりく　雨のそ　目ふるまいらしくめてうくれり

しうる

一 かいこゝかこなれた

馬

一今はむし信濃国に法師ありけり さる田舎にて
法師になりはしきたれば受戒もせていうて京にのぼ
りて東大なといふ所にて更戒をしたれば 思ひくまうし
てのかりにて更戒してけり云云
すらうにちひさやかに形に厨子佛をれこなりひいてしたり
毗沙門にてそおはしけり
一此くもてうにゆきくとゆかく
一河内国にこの聖れかこなふ山の中に乾ゆきくに河内
国信貴と申不にまくきんこいんといふ人やあり云
一やしんといふ物をなつくにも似ひ姉とき京しらへ
くとこ満うにつよけにまうりをもてきたり

一許にのうくきたりし花をもてとそ
一舌なめつりをしく
一わかさにも行く十日をかりあるへかりけれとこの
人のもて訪めてこさふ行けを行く又の日過るへきそと
笑くこそ
一きやうよう 餐宣
一溪の雨と法くとふりく
一なりひかたしく又よこめたるなくて住たれを
一とのもむきくうに又あってをよりを
一度に丸ありしへ
一まへのおまうけてもえたり 脇なり

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z　　ガラス使用

一そこしらさきくん
一ゆうしきやと 松りへとも
一こんのゆくひ さしのあと見 山ふれ
一川よさかりと入けきの入れ上人はくしの武尾ち
一白きとても松ゆくあるひよ ふるの忌日し引入て
一法師 陰陽師 紙冠を きて 松をとらつけて
一うちゆる矢をも ゆくさりけり 神心おなりけり
一荒尺川 山城
一ゆる人ゆ所のゆめ見 むし
一あせ何へく
一ゆねしま 法人し

極楽寺 堀川 吉政 大臣 菓通公 建
一今はむしかゆ見といふしく無せ させ 毛 毎ひ ゆる
こかとれひちりきとよ中せ らき 海よ人こわるく
よこうりけり 未こう童乃
めくりくは 教くとふ 桜花 我度ちきくよこけや
一あれ 和 同けなのを 所いひて
一うこむちきこ 教侍
一母の尾しく 行とは 昔へしと 昔よりいひはくへらり
ハくるなりわうふ かゆ 白 君は あつ人 も 清せまり
一かいりくこくわきよいきこく
一ちこの 古 まて 何とまこしいや

一いまはむしあつまりとのうちいとしうさのこゝろ
ゝほうとみく
あれてりや虫のこゑや庭に火のつきて二人もともにくらしてきりたるやうにつまへのやうによ酒ゝとて実ハ法しゆきこゝろよきこゝろ
ゝるとて

一そのさらに　黄ノ実のことし
今ハむし湯殿なりのさせ行ひての津不ハ大
事ハ小西洞院より西油の小路より
東まてなんなりけり大なる池の浴りける鶴屋に
黄のこゝろの祝うり　洲黄の上下きこれ婆ゆ
そのあにこゝろのこゝひしはなるいふ事もこれ

むかし侍しぬしなりうり語ゝるゝまなりいふへより
此所に此こゝて千一百餘年になる也

一山城国田原
ゆきこゝりゆてくり生付今ハ此て書法ゝ

一三戸にて有めす法ゝ人茶師ちかにちかれ世妙寺院
慎富義と世へし人市原山荘に八景を名付て
あつまりをよ酒ゝ

年月磧（テヨツイシ）
為後これ雲れよ不ゝやなかむらん家もに結ふ所の月
杉（クメヲノマツ）斧松
琴れ春にくるひやをのこえにあきハ此山ゝ川の朝の松風

巖(イワカキ)惱水(ミツ)

石のれや水のもとにきのたきこめて世の物りに隔ハてき

北(キタシ)関峯(ミネ)

人とや思ひたまたん人も我もかのそかひの山れたれ

流(ルリ)六渓

岩ちや水のまゝにくなるらんさのむかしきかれさめん

洗(シ)密(ミツ)利(ノ)

れりしそれいかれかくしかしらんみそかんハ神も先しを

枕(マクラ)流(ノ)洞(ボウ)

うたゝ様の枕なるも水菓れしとるれほしハ春秋も法

飛(アス)鳥(カノ)潭(マナル)　奇脱

ひうこともいかふいつかたふ心れかきこるハ有しいく

夜ふき雲のよそにやといへるハそにをもたかひて

わかれ家に生れたる人ともわほくれ天子為

京の大山なとらふ訪人を彼山莊に招きて

ひうこをしして訪を作らしめらふわほつかな

きるなん

第丹ゝ集に清しき家とてあるハ初のうこれも

ての句れて集を次の奇れもしめの句よこめる

をいへり

れ那し集の末に此てんよ此の海の物ものれもし

たてうたうよりといふ末ハうこをきこうふの家と

玉葉集にはしきりにとてこれのせらるそのかの
集にはよしたゞか分きて物しる
出雲風土記に海根郡附浦より出もて物を志る
せり中に蒜頭蒿あり其蒜頭蒿者正月
元日生長六寸といへり和名集に蒜蒿とかれ
くれこそといへる葉あり了葉にうもきとよ
めれこそ物り蒜頭蒿も葉蒿なりけり
なしかれし風土記に佐世の木葉といへり古事
記に佐志夫乃木といふも和名に鳥草樹とかけ
る木にて山中のそのさせほとかなんもしも佐
世の木といふもをいつるにや

同風土記云大神大穴持命御子阿坐須伎高日
子命御髭須八握千生書一夜哭坐之辞不通尓時
祖命御子葉船而率巡八十嶋宇良加志給鞆
猶不止哭之
世にいとをなきをてくらんといふ此宇良加
志とかれたるをくちえくいふにや日本紀に推の字
らはしかれとよめりうしうしてといふもこれに相
しきかや
かれし風土記に都波と云ひいそのまゝ蒸蒸をかりにて
さこ交にありて五月のうち黄なる葉のまをら
なりやうしたりもさくねとすゝのいとしいふ是也

同風土記ニ雲出葛宇耶々ニ尓ニ行リ八束臣
津見命といふ神出雲國のちひさかりけるを四
方に沼ほなしとあまりあまりを得しく引出せ
てこへそ母ふといふ所にいへり日本紀に所便とか
きてもやりくなりしほとよめりしかきは雲にはへる
はしらの葉なりとも落くくるふたよりよりよ
そへくいへ家見河原と毛曽呂ニて尓といへりも阿
舟ニ志つかに行きのなりきもしそ何くは俗ふと
ろしといへるにや
和名に醪唐韻云醪酒薄也
和名之流一云元曾古
室原川源出郡家東南卅五里鳥上山北流所謂
斐伊河上
日本記に鳥上山鼓之河ニてうり
鳥上山は神の郡に在り
意宇郡に来待川支麻和社あり
嶋根郡に出雲渡あり
飯梨郡に飯梨
川あり大原郡に須豪小川赤秦(ハタ)社等ニ呂吉
社世裡陀社あり神の郡に保乃加社あり
かけろふ日記に此所足りてひつきくるりし
こゝのむ丈ほしはこしらくちまりたるをもひはつめて
松原に日記にいつしきにくしきにいへてしといふ
なりして世の中もてろうれといふをまてていくらと

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z

ガラス使用

もきくこゝれうまやなとといふ聖きこゝ
なひは儀火とかゝうさきちゆゝをいへり
よろかひはうへ法
よろかひは下の字をよほうとよむそれ和と
此字なるへし
ちひきれよりも世にいふなり稱すをわひのほ
とふふあらぬをえく
いつしけふ此法そくはなとうおそうほう月法る
よほしつるこ此よりけるとるのおとなひくつう寸
○此ちらはめつしけなしほとしまほのむらなく
そぬくおりぬうりよとしひのしは聖なれく

明恵傳に上人の字は
山ちは法師くさくて居たりすゝ法くはくそ
くそぬくとはかちやをいふなや　まそも
引としるぬとは今は合伎の罠れくちめ乃ねる
そうゆゝあふ坂ふのせきのねは咲まも神そしおわる
右二首くちめは琴の名也　ふのまへりせきふまそ
琴しきなりしてかくいひおりとあ里
をしはせろきこしめすゝ風しとそいふしちはいく
いかくこんとおりふるとこうそなきこんとおりもく
とあるときはさしくきしろくうこんといへとよる
なりとのこんくのしまとてなうろぬ遊風窟

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z　　ガラス使用

和泉なり今もいふ所なり土佐日記ニ小津の
こまりを過ぎ和泉めしいるくなり
四辺と相引ゆゑ也妹もこゝろの浦なるきしの和
ひ小津の名ハ大津よりへく付ける今ハ此ハ小倭
といふ所なりそこにやゝ
和名集云日根郡呼唹平これ也
日本紀才三日五月丙子朔癸酉軍至茅渟山城
水門亦名山井水門茅渟此云智怒時五瀬命天瘡痛甚乃撫劍
而雄詰之曰慨哉吏大夫云云
持人因号其處日雄水門
遊仙窟云行至二三里回頭看數人猶立旧處余

時漸々去遠声沉影滅顧瞻不見
土佐日記にかくこれもまゝ此ほとりにて
まゝ人も遠くなりぬ和の人も見えず
いふのあれ〳〵和にもそこにて
大和物ゝすゝにこれ出くいぬまことえ返るをもとれ
くるすハ和のゆくをえいふ所にのしる人々車を
みるとて和にてをはし出くこれゆけいとゆうなる
まゝにかわれていとちいさくなるまゝくえおこせられ
いとうれしかりけり
土佐日記にあるかしも童まて碎しまた
一りしをこにしぬ物しかしそハ十りし鶏まてあ

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』 請求記号 121.27-Ke116z
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』 請求記号 121.27-Ke116z
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z

ガラス使用

れるの意の山にさしかはしてれるのさしかれ
のこまくたかしといふなるべし
新後拾遺集に　題しらずよしへ
小やうそしやうとも見へわかすかよひてもめる様の
よれ月　此斉洲石集に横後隠家にて詠るへのよ
めるよし見へたり
新勅撰に大納言師氏
白家と菓にて笠の絵を習ひもせうふ詠る松
もし
新古今に　後成々女
下もくに思ひ渡なん烟にあとなき雲にそ悲しき
又
菓にとよ見し面新もちきりしもわすれすなりこゝ
あらねハ

右二首ハ棲衣に
かもめよりは思ひ渡なん烟にも立かくれてハくゆるなし
門
菓にとよ見しも似るつゝまゝらきハ見めしもしとなる
此二首にくよまれ見る歟
めくりあいん詠りハ人と云ふ様も月を無てそよりの　村雲
此後京極殿の御所ハ棲衣に
めくりあいん詠りになきを奇元の月のいてをしるも
見れにもよりの村雲隠れハよりて神にやとりてもみれ
此後菅二首を見てよし給へり
日本後紀に云天長八年二月乙酉囚獄司物部定額
四十人依無名員氏入色人通取他氏早補四十令員

菓皆令帶兵使無人分番不堪充部也 [illegible]
定額少孺のことをしり定額ハ何のもの[illegible]
○日本後記哥 延喜十四年夏四月戊戌朔戊申曲宴
天皇誦古哥曰
以途之弊能々那何浮流弥知阿良多米波阿良多
麻良武也能那賀浮流弥知
勅尚侍從三位百濟王明信令和之不得成焉
天皇自代和曰
記美已蘓波和主婺多曽羅米尓記多麻乃多
和也米和礼波都祢乃詩羅多麻
十五年夏四月丙寅宴庭酒酣 上乃歌曰
氣左乃阿沙氣奈呼登以非都留保登々擬須
伊可毛奈可奴加此登能綺久陪久
十六年冬十月癸亥曲宴酒酣皇帝歌曰
已乃已呂乃志具礼乃阿米尓菊乃波奈知利
曽之奴倍岐阿多良蘓乃香乎
大同二年九月乙巳幸神泉苑琴哥閑巻四位已上
共排菊花于時皇太弟頌哥云
美那比度乃曽能可尓米豆留布智波賀麻岐
美能於保母能多乎利太流祁布
上和之曰
袁理比度能已々呂能麻丹真布知浪賀麻宇

倍伊呂布賀久尓保比多理ゆ利
大同三年九月戊戌幸神泉苑有勅令從五位下平郡
朝臣賀是麻呂作和哥曰
伊賀尓布久賀是尓阿礼波可於保志万乃乎
波奈能須惠乎布岐年須悲太留
皇帝歎悅即授從五位上
延暦二十二年三月庚辰遣唐大使葛野麿
副使石川道益賜餞宴設之事一依漢法酒
酣　上嗔葛野麻呂於御床下賜酒
天皇歌曰
許能佐氣波於保迩波安良須多比良可尓
何倍理伎米勢止伊婆比多流佐氣
葛野麻呂涕淚如雨侍宴群臣無不流涕
弘仁四年夏四月癸未朔甲辰幸皇太弟南
池命文人賦詩右大臣藤原朝臣園人上哥
曰
初布乃此乃伊ゆ能保理尓保止度伎須多此
良波知与止那久波企々都夜
天皇和曰
保度止伎須那久已惠企ゆ波宇多奴志度
々毛尓子世尓度和禮毋企々多理
大臣舞蹈

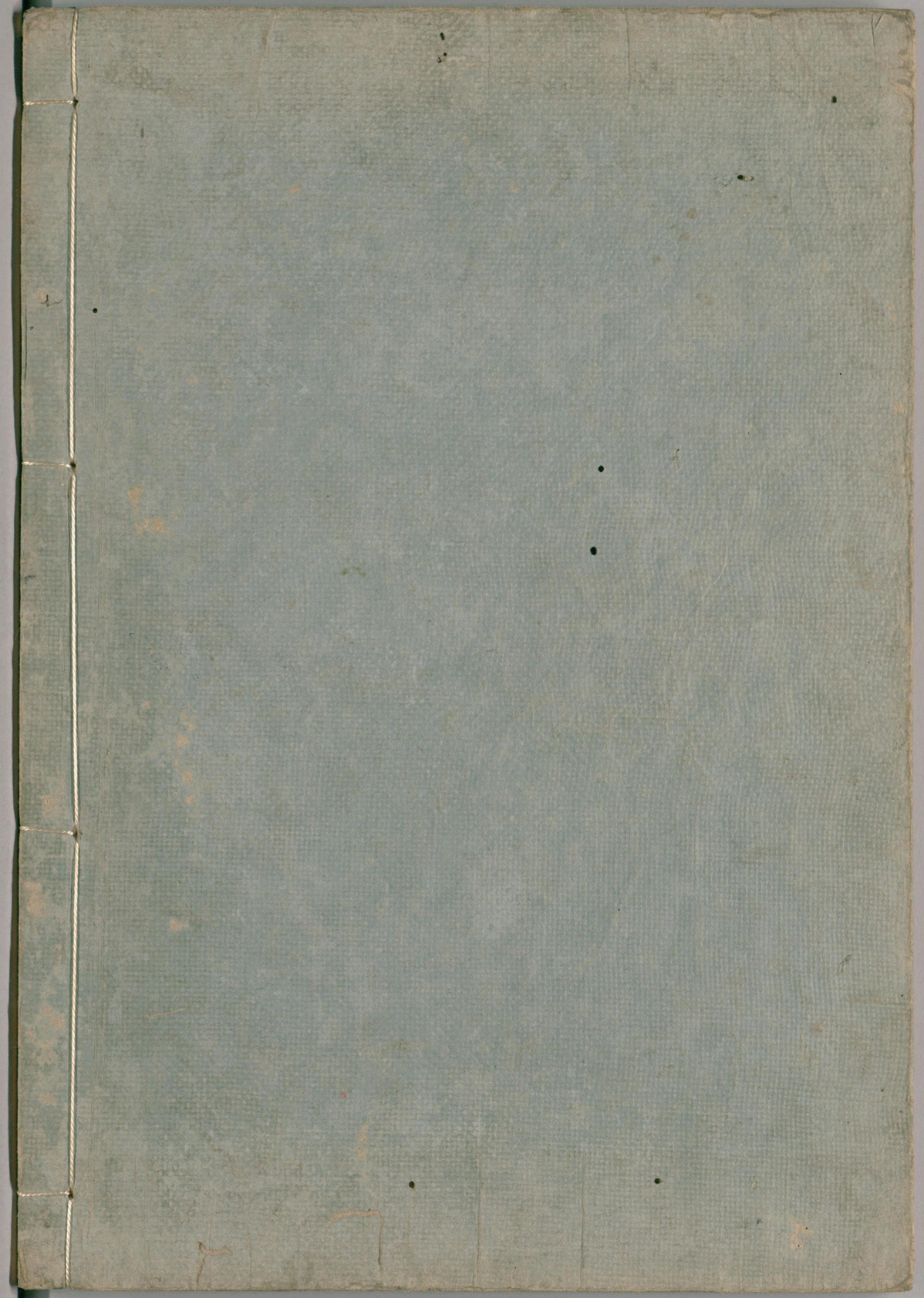
右九首の中に嵯峨に皇まして坊にましく日の附
乃法家の上句のこそ万葉の古風よりはすこし古な
ぶ尓ゆゑ事にはまして古風なり雲之の形撰
和哥集序尓弘仁より延長に至るまで此哥を
ゑらくそれより此時にこの古質なるとは取らしむ
ゆゑもかほのかなし
續日本後紀才十九に嘉祥二年三月小奥福
寺の庇従にかとの四十年来にこらすゆゑ笑し
なるも其家を新屋くいたく夫和哥も體此
奥為さん式ノ或ハ式 助人情最在茲矣季世陵達斯
そこで已墜今 玉僧中頗存古語可謂禮失則
求之野而採而栽之以附家此花れとみへ
見しかく知遂し

元禄十二卯年五月仲旬　契仲述作

右しなしよしのはらふ江こゑさく物りしひと
いへとも原なれましたうしたし おきゑ後のつま
ひらかなる人そのあやまりをたしきまへ

国立国会図書館　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『雑々記』　請求記号 121.27-Ke116z

ガラス使用